

愛称 **モンド**

ピクテ・サステナビリティ・マルチアセット・ファンド  
追加型投信/内外/資産複合

ピクテ・ファンド・ウォッチ 2023年2月16日

## 2023年1月の運用状況と今後の見通し

●設定・運用は

### PICTET JAPAN

ピクテ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」等をご覧ください。

# モンドの運用状況と今後の方針

## 運用状況

世界の株式市場は、市場予想を下回る弱い経済指標を受けて米国の利上げペースが減速するとの観測が浮上したことや、中国のゼロコロナ政策解除によって景気回復期待が強まったことなどから、上昇しました。

世界国債市場は、中国のゼロコロナ政策解除に伴う需要回復観測から下落する局面もありましたが、12月の米国企業の景況感指数が軟調であったことや、ユーロ圏の消費者物価指数が市場予想を下回ったことなどから、上昇(利回りは低下)しました。

為替相場では、円高・ドル安が進行しました。ユーロ・円相場は、ほぼ横ばいとなりました。

こうした中モンドの基準価額は9,249円、前月末比で+246円(+2.7%)の上昇となりました。

※世界の株式市場および国債市場については、現地通貨ベースのコメントです。

## 主な投資行動の振り返り

引き続きESGへの取り組みなどを考慮し選定された投資戦略への分散投資を行い、現時点の投資方針にあわせてポートフォリオの調整を行いました。

資産配分において、当月はキャッシュの組入比率を引き下げ、株式、債券、オルタナティブの組入比率を引き上げました。

株式部分では、デジタル・コミュニケーション関連株式、新興国ESG関連株式の組入れを開始したほか、世界(除くスイス)ESG関連株式、ブランド関連株式、アジア(除く日本)株式の組入比率を引き上げました。

債券部分では、現地通貨建て新興国債券の組入れを開始したほか、世界ESG関連社債や世界ソブリン債(為替ヘッジ)などの組入比率を引き上げました。

オルタナティブでは、アジア株式ロング・ショート戦略(為替ヘッジ)および世界リート(ETF)の組入れを開始しました。

## 市場環境

中国では、ゼロコロナ政策に伴う都市封鎖が解除されたことから、5兆元前後(中国のGDPの4%程度に相当)に積み上がったと推定される家計の余剰貯蓄が消費に回る可能性があるかとみています。

流動性については、主要国・地域の中央銀行の流動性フローは依然マイナス圏にあります。

バリュエーション(投資価値評価)については、欧州の新興国や中南米などの新興国株式に割安感があるとみています。

センチメントについては、1月は月末にかけて改善しました。

## 今後の方針

欧米の景気はこれから厳しい局面に入るとの認識に変わりはなく、企業業績の下方修正はこれから増加するとみています。

このため、株式に対しては慎重なスタンスを継続し、中国経済の回復によって恩恵を受けられる戦略などへ選別的に投資を行う方針です。債券については、米国中心に強気スタンスを継続し、流動性環境の改善を見越してクレジット債への投資を引き上げるタイミングを検討します。

(ご参考)直近の日米インフレ率動向  
 日本・消費者物価指数 全国 総合  
 前年同月比+4.0%(2022年12月)  
 米国・消費者物価指数  
 前年同月比+6.4%(2023年1月)  
 米国・個人消費支出デフレーター  
 前年同月比+5.0%(2022年12月)

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。  
 ※基準価額は1万口当たりで表示しています。基準価額は信託報酬等控除後。換金時の費用・税金等は考慮していません。  
 出所:総務省(日本・消費者物価指数 全国 総合)、米国労働省(米国・消費者物価指数)、米国商務省(米国・個人消費支出デフレーター)、ブルームバーグ(世界株式、世界国債(ヘッジあり))

# 基準価額の推移(1)

- 2023年1月の世界の株式市場は上昇、世界の国債市場も上昇(利回りは低下)しました(すべて現地通貨ベース)。また、為替相場では、円高・ドル安が進行、ユーロ・円相場はほぼ横ばいになりました。
- こうした中モンドの基準価額は9,249円、前月末比で+246円 (+2.7%)の上昇となりました。

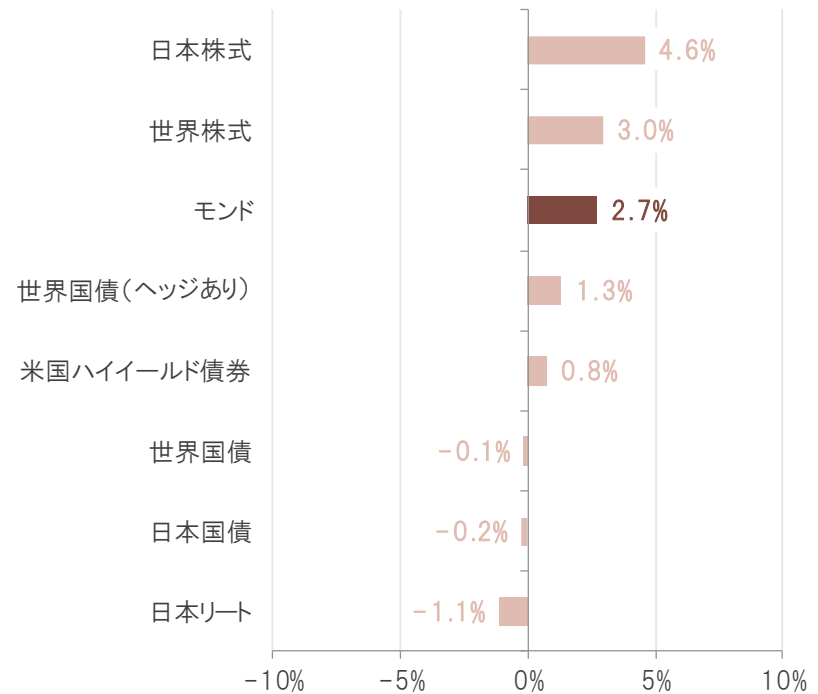
## 基準価額の推移

日次、期間:2021年10月15日(設定日)~2023年1月31日



## 月間騰落率比較

月次、円ベース、期間:2022年12月末~2023年1月末



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

※モンド:基準価額は1万口当たり、信託報酬等控除後。換金時の費用・税金等は考慮していません。 ※日本国債:FTSE日本国債指数、世界国債(ヘッジあり):FTSE世界国債指数(円ヘッジ)、世界国債:FTSE世界国債指数(円換算)、米国ハイイールド債券:ICE BofA米国ハイイールド債券指数(円換算)、世界株式:MSCI全世界株価指数(円換算)、日本株式:TOPIX、日本リート:東証REIT指数 ※指数はすべてトータル・リターン・ベース

※投資対象ファンドによって基準価額に反映する日が1-2日異なるため、比較指数は1営業日前ベースとしています。

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

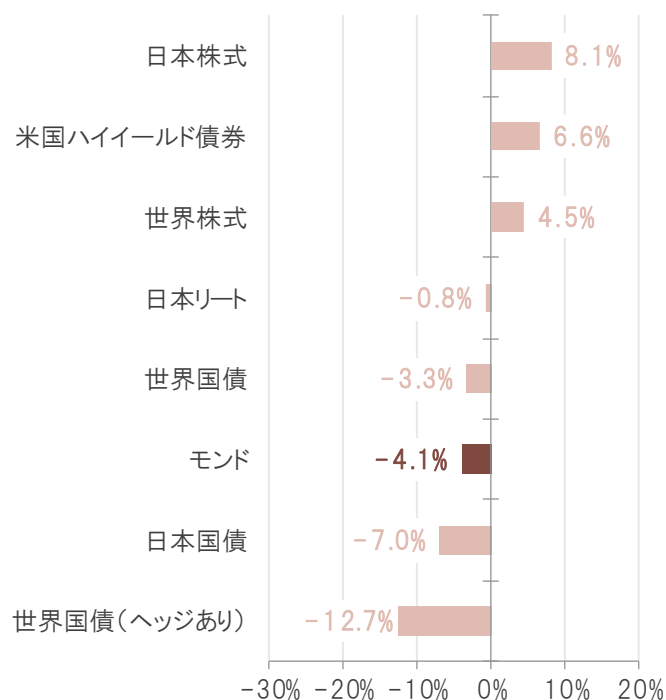


## 基準価額の推移(2)

- モンドの基準価額は過去1年間(2022年1月末～2023年1月末)では-4.1%の下落となりました。
- モンドの設定来の年率のリスク(標準偏差)とリターンはそれぞれ6.9%、-5.8%となっています。

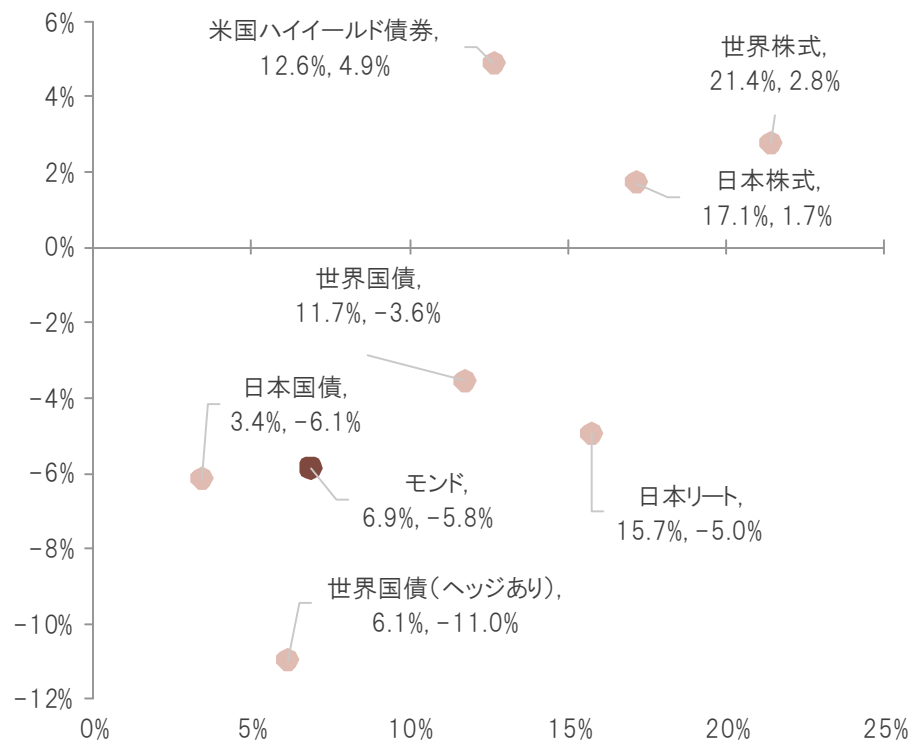
### 過去1年間の騰落率比較

月次、円ベース、期間:2022年1月末～2023年1月末



### モンドと主要な資産のリスク・リターン比較

日次、円ベース、年率、期間:設定日(2021年10月15日)～2023年1月31日  
グラフ中の数字はリスク,リターン



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

※モンド:基準価額は1万口当たり、信託報酬等控除後。換金時の費用・税金等は考慮していません。 ※日本国債:FTSE日本国債指数、世界国債(ヘッジあり):FTSE世界国債指数(円ヘッジ)、世界国債:FTSE世界国債指数(円換算)、米国ハイイールド債券:ICE BofA米国ハイイールド債券指数(円換算)、世界株式:MSCI全世界株価指数(円換算)、日本株式:TOPIX、日本リート:東証REIT指数 ※指数はすべてトータル・リターン・ベース

※投資対象ファンドによって基準価額に反映する日が1-2日異なるため、比較指数は1営業日前ベースとしています。

出所:ブルームバーグのデータを基にビクテ・ジャパン作成

# 基準価額変動要因分析

- 2023年1月は、株式、債券、オルタナティブのすべてがプラス寄与となりました。

## 基準価額変動要因分析

月間(期間:2022年7月~2023年1月(各月末値)、年間(期間:2021年~2022年)  
および設定来(期間:設定日(2021年10月15日)~2023年1月末)

	月間変動要因							年間変動要因		設定来 変動要因
	22年7月	22年8月	22年9月	22年10月	22年11月	22年12月	23年1月	2021年	2022年	
基準価額(期末)	9,459円	9,389円	9,038円	9,209円	9,285円	9,003円	9,249円	10,147円	9,003円	9,249円
変動額	+140円	-70円	-351円	+171円	+76円	-282円	+246円	+147円	-1,144円	-751円
うち 株式	+62円	+38円	-162円	+227円	+18円	-197円	+152円	+190円	-332円	+11円
債券	+42円	-50円	-103円	-4円	+27円	-121円	+77円	-8円	-351円	-281円
オルタナティブ	-16円	+1円	-2円	+2円	-4円	-2円	+20円	+2円	+11円	+32円
先物・オプション	±0円	±0円	±0円	±0円	±0円	±0円	±0円	±0円	±0円	±0円
分配金	--	--	0円	--	--	--	--	±0円	±0円	±0円
信託報酬等	-10円	-11円	-10円	-10円	-10円	-10円	-10円	-25円	-123円	-158円
その他	+62円	-48円	-74円	-44円	+44円	+48円	+7円	-12円	-349円	-355円

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

※1万口当たり基準価額における変動要因です。月間の基準価額は各月末値、年間の基準価額は各年末値、設定来の基準価額は直近月末値です。マザーファンドの組入ファンドの価格変動を基に委託会社が作成し参考情報として記載しているものです。項目(概算値)ごとに円未満は四捨五入しており、合計が一致しない場合があります。信託報酬等は、当ファンドの信託報酬や信託事務に要する諸費用等を含みます。その他には、当ファンドで直接行われる為替予約取引の要因等を含みます。マザーファンドの組入比率とマザーファンドの組入ファンドの価格変動および組入比率から算出した組入ファンド別の要因分析を主な投資対象ごとに集計したものです。したがって、組入ファンドの管理報酬等や、為替変動要因、ヘッジコスト、ヘッジ比率の変動による要因等は各投資対象に含まれます。ただし、短期金融商品等を主な投資対象とするファンドの要因はその他に含めています。

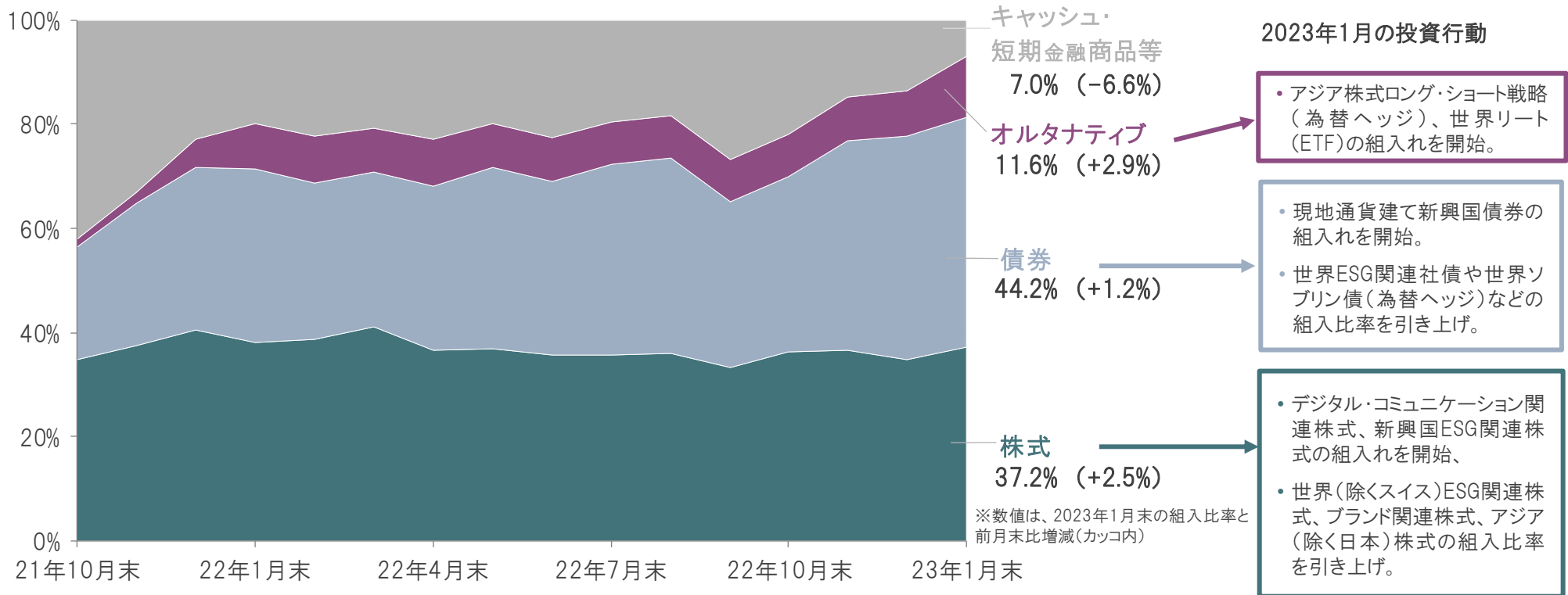
※2021年(年間)の期間は、設定日(2021年10月15日)~2021年12月末です。

# 資産配分の推移

- 2023年1月は、キャッシュの組入比率を引き下げ、株式、債券、オルタナティブの組入比率を引き上げました。

## 資産配分の推移

月次、期間：2021年10月末～2023年1月末



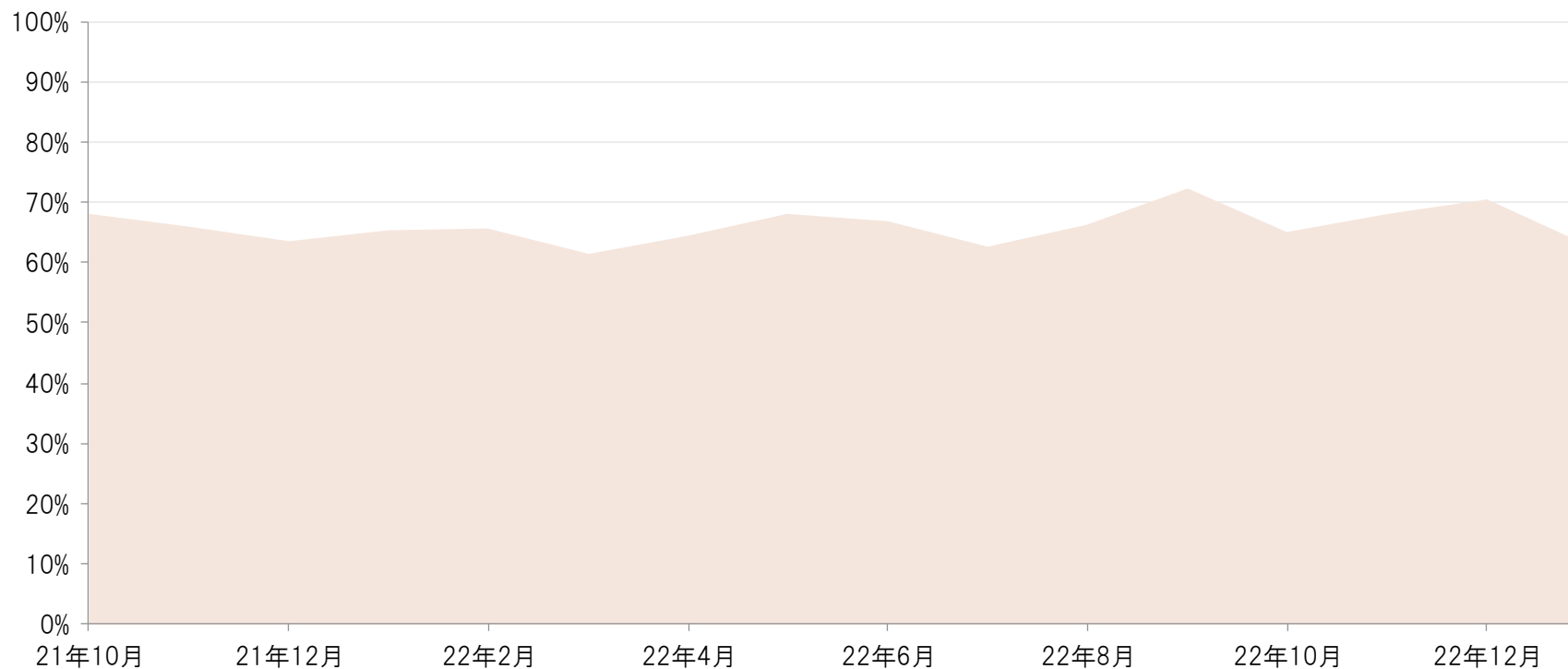
※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。  
 ※構成比は実質比率(マザーファンドの組入比率×マザーファンドにおける当該資産の組入比率)です。マザーファンドにおける当該資産の組入比率は、各投資先ファンドを主な投資対象によって株式、オルタナティブ、債券、短期金融商品等に分類、集計しています。「キャッシュ・短期金融商品等」には、投資先ファンドで保有する現金等の比率は含みません。当ファンドで直接指数先物取引を行った場合、債券、株式の構成比に含めています。構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。

## 円資産比率の推移

- モンドでは、日本円ベースでのリスク管理を行い、長期的な値動きの安定性を意識し、円資産(円建て資産や円ヘッジの外貨建て資産)を積極的に組み入れています。
- 2023年1月末時点の円資産比率は、63%です。

### 円資産比率の推移(概算値)

月次、期間:2021年10月末~2023年1月末



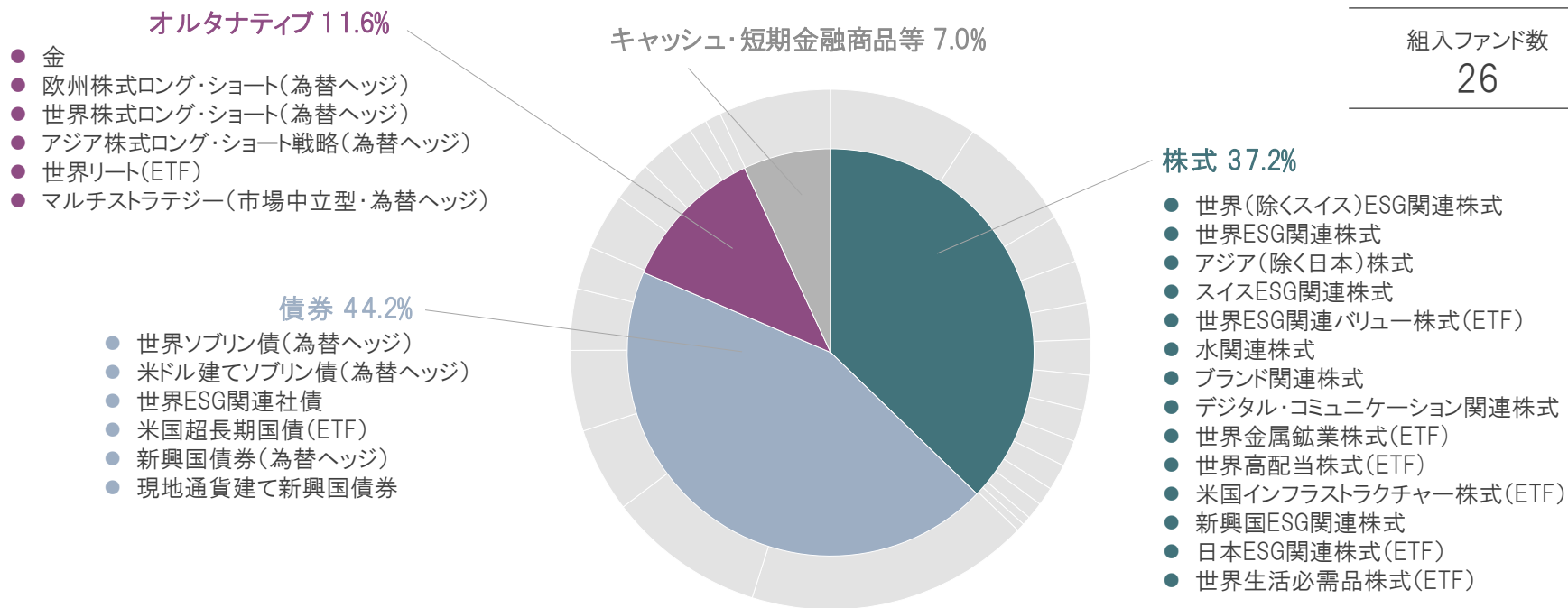
※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

※円資産の比率は、当ファンドで保有しているコール・ローン等の比率と、円建て資産の比率、為替予約の比率から計算した概算値です。円建て資産の比率は、各投資先ファンドで組み入れている円建て資産と各投資先ファンドの実質組入比率から算出しています。為替予約の比率は、当ファンドで直接行う為替予約の比率です。

# 当月の資産配分比率 (1)

- モンドは、様々なアセット・クラス(資産)への国際分散投資と同時に、ESGへの取り組みなどを考慮し、組入ファンドを選定していることが大きな特色です。

## モンドの資産配分比率 2023年1月末時点



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

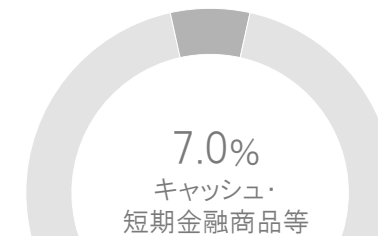
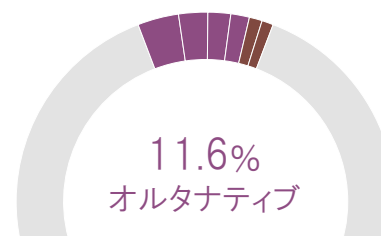
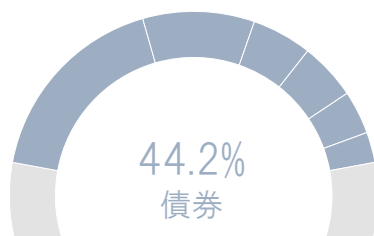
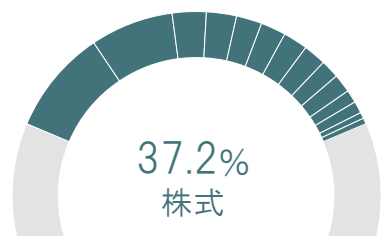
※上記の資産配分比率は実質比率(マザーファンドの組入比率×マザーファンドにおける当該資産の組入比率)です。マザーファンドにおける当該資産の組入比率は、各投資先ファンドを主な投資対象によって株式、オルタナティブ、債券、短期金融商品等)に分類、集計しています。「キャッシュ・短期金融商品等」には、投資先ファンドで保有する現金等の比率は含みません。当ファンドで直接指数先物取引を行った場合、債券、株式に含めています。また、比率は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。



## 当月の資産配分比率 (2)

- 運用チームでは、株式や債券といったアセット・クラス(資産)だけではなく、個々の投資対象が運用戦略全体の中で成長(=グロース)や保全(=プロテクション)など果たす役割の違いも考慮した上で、細かく分散を行いポートフォリオを構築しています。

### モンドの資産・役割別配分比率 2023年1月末時点



グロース	
世界(除くスイス)ESG関連株式	9.2%
世界ESG関連株式	7.3%
アジア(除く日本)株式	3.0%
スイスESG関連株式	2.6%
世界ESG関連バリュー株式(ETF)	2.2%
水関連株式	2.2%
ブランド関連株式	2.2%
デジタル・コミュニケーション関連株式	2.0%
世界金属鉱業株式(ETF)	1.6%
世界高配当株式(ETF)	1.6%
米国インフラストラクチャー株式(ETF)	1.1%
新興国ESG関連株式	1.0%
日本ESG関連株式(ETF)	0.5%
世界生活必需品株式(ETF)	0.5%

グロース	
世界ESG関連社債	5.3%
新興国債券(為替ヘッジ)	3.8%
現地通貨建て新興国債券	2.7%
プロテクション	
世界ソブリン債(為替ヘッジ)	17.6%
米ドル建てソブリン債(為替ヘッジ)	9.8%
米国超長期国債(ETF)	5.0%

グロース	
世界リート(ETF)	1.1%
プロテクション	
金	3.5%
トータル・リターン	
欧州株式ロング・ショート(為替ヘッジ)	2.5%
世界株式ロング・ショート(為替ヘッジ)	1.9%
アジア株式ロング・ショート戦略(為替ヘッ)	1.6%
マルチストラテジー(市場中立型・為替ヘッジ)	1.0%

キャッシュ・短期金融商品等 7.0%

投資対象の役割と比率	
<b>グロース</b>	<b>50.1%</b>
リスク資産として、リターンの獲得を目指すための資産	
<b>プロテクション</b>	<b>36.0%</b>
株式等のリスク資産との相関が比較的低い、または負の相関を持つとされる資産	
<b>トータル・リターン</b>	<b>7.0%</b>
絶対収益型など、伝統的資産と異なる値動きをする資産	

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。  
 ※上記の資産配分比率は実質比率(マザーファンドの組入比率×マザーファンドにおける当該資産の組入比率)です。マザーファンドにおける当該資産の組入比率は、各投資先ファンドを主な投資対象によって株式、オルタナティブ、債券、短期金融商品等に分類、集計しています。「キャッシュ・短期金融商品等」には、投資先ファンドで保有する現金等の比率は含みません。当ファンドで直接指数先物取引を行った場合、債券、株式に含めています。また、比率は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。 ※「グロース」、「プロテクション」、「トータル・リターン」の区分はピクテによる独自の区分であり、同じ資産でも今後の状況によっては役割(区分)が変更される場合があります。また、市場動向によっては期待した役割通りの動きとならない場合があります。 出所:ピクテ・アセット・マネジメントのデータを基にピクテ・ジャパン作成

# 基準価額変動要因分析(詳細)

## 基準価額変動要因分析

月間(期間:2022年7月~2023年1月)、設定来(期間:設定日(2021年10月15日)~2023年1月末)

主な投資対象	2022年							2023年	設定来
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
変動額	+140	-70	-351	+171	+76	-282	+246	-751	
株式	+62	+38	-162	+227	+18	-197	+152	+11	
債券	+42	-50	-103	-4	+27	-121	+77	-281	
オルタナティブ	-16	+1	-2	+2	-4	-2	+20	+32	
先物・オプション									
短期金融商品等	+0	-0	-0	-0	-0	+0	-0	-1	
信託報酬等、その他	+52	-58	-84	-54	+35	+38	-3	-512	

投資対象名	2022年							2023年	設定来
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
株式								-23	
欧州ESG関連株式								-23	
デジタル・コミュニケーション関連株式							+1	-22	
水関連株式	+7	+5	-10	+12	-1	-9	+6	-5	
セキュリティ関連株式	+3	+1	-6					-57	
テーマ戦略株式								-17	
世界ESG関連株式	+15	+10	-30	+63	+5	-43	+22	+95	
ロボティクス関連株式								-46	
環境関連株式								-13	
ブランド関連株式	+1	+1	-3	+4	+3	-5	+15	-14	
世界高配当公益株式	+1	+8	-10	-1				+39	
日本株式	+2	+1	-2	+2	+1	-2	-0	-0	
世界(除くスイス)ESG関連株式	+15	+19	-35	+41	+1	-59	+46	+31	
スイスESG関連株式	+3	-2	-6	+10	+5	-10	+7	+16	
世界バリュー株式(ETF)								+15	
世界金融株式(ETF)								-11	
中国A株式(ETF)								-11	
世界ESG関連バリュー株式(ETF)	+2	+1	-5	+10	-0	-10	+6	+15	
世界金属鉱業株式(ETF)	-3	+3	-3	+5	+12	-4	+12	+15	
世界クオリティ株式(ETF)								-7	
米国インフラストラクチャー株式(ETF)	+5	+3	-6	+11	-2	-6	+2	+7	
世界ヘルスケアESG関連株式(ETF)	+2	-2	+0	+9	-1	-3	-2	+2	
新興国株式(ETF)	-3	+1	-6	+0				-5	
世界高配当株式(ETF)	+2	-1	-9	+17	+1	-10	+3	+4	
日本ESG関連株式(ETF)	+3	+1	-9	+8	+6	-9	+2	+1	
世界テクノロジーESG関連株式(ETF)	+6	-7	-19	+18	-4	-19	+8	-16	
米国ESG関連小型株式(ETF)		-2	-4	+12	-7	-2		-3	
世界生活必需品株式(ETF)			+0	+6	-1	-4	-2	-0	
アジア(除く日本)株式					+1	-3	+20	+18	
新興国ESG関連株式							+3	+3	

投資対象名	2022年							2023年	設定来
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
債券									
米ドル建てソブリン債(為替ヘッジ)	+22	-23	-38	-15	+11	-8	+17	-130	
ユーロ建てソブリン債	+4	-16	-7	+4	-4	-27	+5	-101	
世界ESG関連社債	+5	+6	-4	+4	-5	-15	+7	+3	
新興国ESG関連債券								-4	
世界物価連動国債(ETF)								-6	
ユーロ物価連動国債(ETF)	+2	-4	-15	+22	-1	-18		-9	
米国超長期国債(ETF)	+4	-3	-14	-20	-4	-25	+18	-51	
世界ESG関連債券(ETF)	+5	-4	+2	+3	-1			+19	
世界ソブリン債(為替ヘッジ)		-5	-17	-1	+18	-28	+18	-14	
新興国債券(為替ヘッジ)		-1	-10	-3	+11	+1	+11	+10	
現地通貨建て新興国債券							+1	+1	
オルタナティブ									
金	-16	+4	-1	+4	-1	-2	+12	+51	
欧州株式ロング・ショート(為替ヘッジ)	+0	-1	-1	+0	-1	-1	+2	-5	
マルチストラテジー(市場中立型・為替ヘッジ)	-1	-2	-0	-1	-0	+1	+1	-6	
世界株式ロング・ショート(為替ヘッジ)	+1	-0	-1	-1	-1	+0	+1	-11	
アジア株式ロング・ショート戦略(為替ヘッジ)								-0	
世界リート(ETF)							+4	+4	
短期金融商品等									
短期金融商品等	+0	-0	-0	-0	-0	+0	-0	-1	

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

※月次ベースおよび設定来(設定日:2021年10月15日)の1万口当たり基準価額における変動要因です。マザーファンドの組入ファンドの価格変動を基に委託会社が作成し参考情報として記載しているものです。項目(概算値)ごとに円未満は四捨五入しており、合計が一致しない場合があります。信託報酬等は、当ファンドの信託報酬や信託事務に要する諸費用等を含みます。その他には、当ファンドで直接行われる為替予約取引の要因等を含みます。マザーファンドの組入比率とマザーファンドの組入ファンドの価格変動および組入比率から算出した組入ファンド別の要因分析を主な投資対象ごとに集計したものです。したがって、組入ファンドの管理報酬等や、為替変動要因、ヘッジコスト、ヘッジ比率の変動による要因等は各投資対象に含まれます。ただし、短期金融商品等を主な投資対象とするファンドの要因はその他に含めています。

# 資産配分の推移(詳細)

## 資産配分の推移

月次、期間:2022年7月~2023年1月

構成比	2022年							2023年	前月比
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
<b>株式</b>	35.7%	36.0%	33.3%	36.4%	36.7%	34.8%	37.2%		+2.5%
欧州ESG関連株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-
デジタル・コミュニケーション関連株式	-	-	-	-	-	-	2.0%	-	+2.0%
水関連株式	1.8%	1.8%	1.6%	2.0%	2.0%	2.0%	2.2%	-	+0.2%
セキュリティ関連株式	1.0%	1.0%	-	-	-	-	-	-	-
テーマ戦略株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-
世界ESG関連株式	9.3%	7.5%	7.2%	7.5%	7.1%	6.9%	7.3%	-	+0.3%
ロボティクス関連株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-
環境関連株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブランド関連株式	0.5%	0.5%	0.7%	1.0%	1.0%	1.0%	2.2%	-	+1.2%
世界高配当公益株式	1.2%	1.5%	0.7%	-	-	-	-	-	-
日本株式	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	-	-	-0.5%
世界(除くスイス)ESG関連株式	9.5%	8.4%	8.0%	8.8%	8.1%	7.9%	9.2%	-	+1.3%
スイスESG関連株式	2.5%	2.5%	2.4%	2.4%	2.5%	2.5%	2.6%	-	+0.2%
世界バリュー株式(ETF)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
世界金融株式(ETF)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中国A株式(ETF)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
世界ESG関連バリュー株式(ETF)	1.0%	1.0%	1.0%	1.5%	2.0%	2.0%	2.2%	-	+0.3%
世界金属鉱業株式(ETF)	0.5%	1.0%	0.9%	1.2%	1.3%	1.3%	1.6%	-	+0.3%
世界クオリティ株式(ETF)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国インフラストラクチャー株式(ETF)	0.9%	0.9%	0.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	-	+0.1%
世界ヘルスケアESG関連株式(ETF)	1.0%	0.9%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	-	-	-1.0%
新興国株式(ETF)	1.3%	1.0%	1.0%	-	-	-	-	-	-
世界高配当株式(ETF)	2.0%	2.0%	1.9%	2.5%	2.5%	2.8%	1.6%	-	-1.2%
日本ESG関連株式(ETF)	1.0%	2.0%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%	0.5%	-	-1.4%
世界テクノロジーESG関連株式(ETF)	1.8%	2.6%	2.3%	2.4%	2.4%	1.0%	-	-	-1.0%
米国ESG関連小型株式(ETF)	-	1.0%	0.9%	1.5%	1.4%	-	-	-	-
世界生活必需品株式(ETF)	-	-	0.5%	1.0%	1.0%	1.0%	0.5%	-	-0.5%
アジア(除く日本)株式	-	-	-	-	1.0%	2.0%	3.0%	-	+1.0%
新興国ESG関連株式	-	-	-	-	-	-	1.0%	-	+1.0%
株式先物・オプション	-	-	-	-	-	-	-	-	-

構成比	2022年							2023年	前月比
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
<b>債券</b>	36.6%	37.6%	32.0%	33.6%	40.2%	43.0%	44.2%		+1.2%
米ドル建てソブリン債(為替ヘッジ)	11.8%	11.0%	8.9%	8.4%	8.5%	9.3%	9.8%	-	+0.5%
ユーロ建てソブリン債	9.1%	7.1%	1.5%	1.0%	2.5%	4.9%	-	-	-4.9%
世界ESG関連社債	3.4%	3.4%	3.0%	2.9%	2.9%	3.4%	5.3%	-	+1.9%
新興国ESG関連債券	-	-	-	-	-	-	-	-	-
世界物価連動国債(ETF)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユーロ物価連動国債(ETF)	3.0%	3.5%	3.3%	3.4%	3.4%	-	-	-	-
米国超長期国債(ETF)	3.9%	4.1%	3.9%	4.6%	5.0%	5.0%	5.0%	-	+0.0%
世界ESG関連債券(ETF)	5.4%	4.5%	2.0%	1.5%	-	-	-	-	-
世界ソブリン債(為替ヘッジ)	-	3.0%	7.9%	9.8%	14.8%	16.9%	17.6%	-	+0.8%
新興国債券(為替ヘッジ)	-	1.0%	1.4%	1.9%	3.0%	3.6%	3.8%	-	+0.2%
現地通貨建て新興国債券	-	-	-	-	-	-	2.7%	-	+2.7%
債券先物・オプション	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>オルタナティブ</b>	8.1%	8.0%	8.0%	8.1%	8.3%	8.7%	11.6%		+2.9%
金	2.8%	2.8%	2.8%	3.1%	3.4%	3.5%	3.5%	-	-0.0%
欧州株式ロング・ショート(為替ヘッジ)	2.4%	2.4%	2.4%	2.3%	2.3%	2.4%	2.5%	-	+0.1%
世界株式ロング・ショート(為替ヘッジ)	1.9%	1.9%	1.9%	1.8%	1.8%	1.9%	1.9%	-	+0.1%
マルチストラテジー(市場中立型・為替ヘッジ)	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	1.0%	1.0%	-	+0.0%
アジア株式ロング・ショート戦略(為替ヘッジ)	-	-	-	-	-	-	1.6%	-	+1.6%
世界リート(ETF)	-	-	-	-	-	-	1.1%	-	+1.1%
<b>キャッシュ等</b>	19.6%	18.4%	26.7%	21.9%	14.8%	13.5%	7.0%		-6.6%
短期金融商品等	10.0%	9.6%	9.7%	9.3%	7.8%	5.1%	5.3%	-	+0.2%
キャッシュ等	9.7%	8.8%	17.1%	12.6%	7.0%	8.4%	1.7%	-	-6.7%

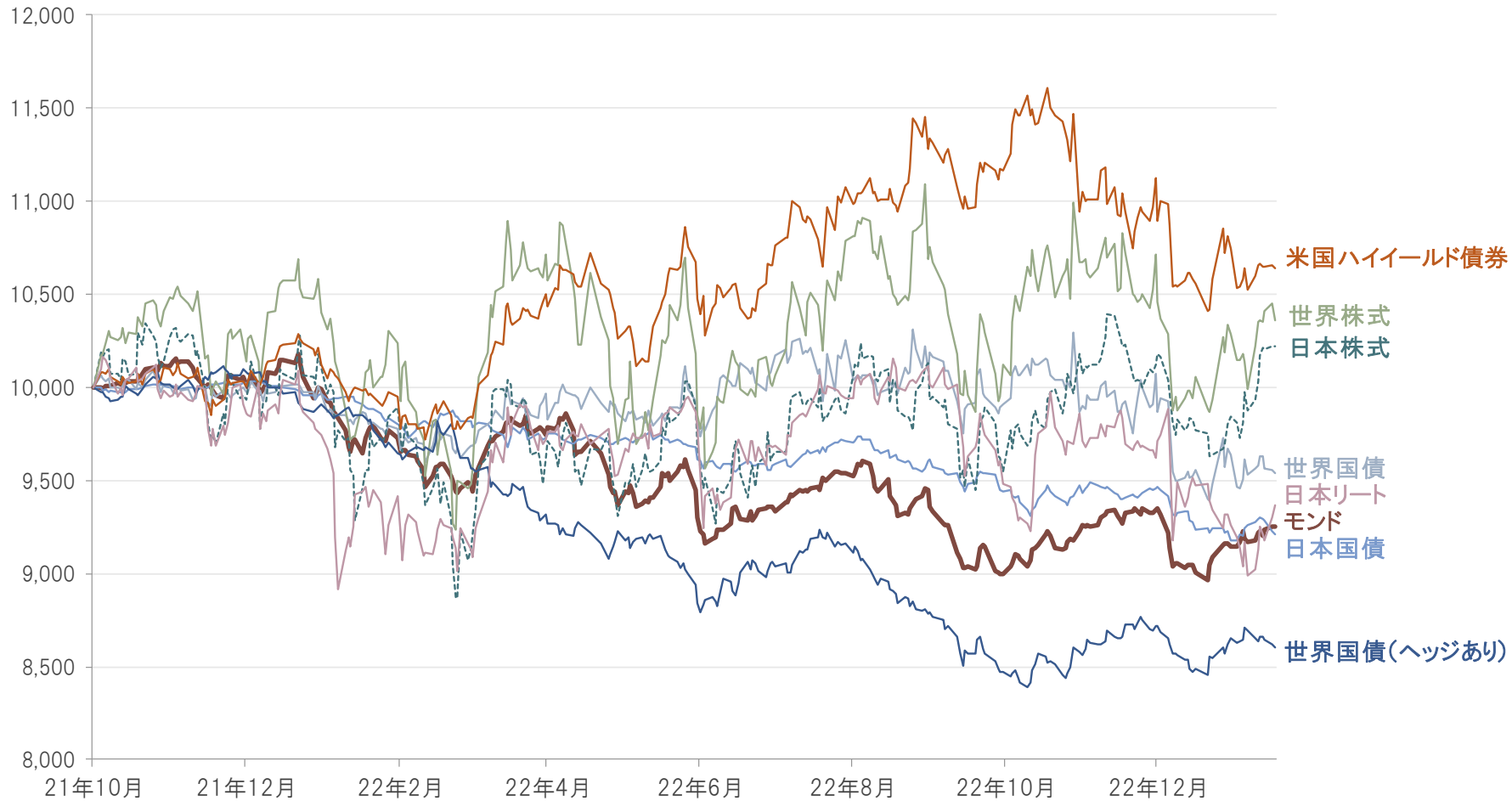
※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

※構成比は実質比率(マザーファンドの組入比率×マザーファンドにおける当該資産の組入比率)です。マザーファンドにおける当該資産の組入比率は、各投資先ファンドを主な投資対象によって株式、オルタナティブ、債券、短期金融商品等に分類、集計しています。「キャッシュ・短期金融商品等」には、投資先ファンドで保有する現金等の比率は含みません。当ファンドで直接指数先物取引を行った場合、債券、株式の構成比に含めています。構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。

# (ご参考)パフォーマンス比較

## モンドの設定来基準価額と各主要資産のパフォーマンス

日次、円ベース、期間:2021年10月15日(設定日)~2023年1月31日  
(円)



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

※モンド:基準価額は1万口当たり、信託報酬等控除後。 ※日本国債:FTSE日本国債指数、世界国債(ヘッジあり):FTSE世界国債指数(円ヘッジ)、世界国債:FTSE世界国債指数(円換算)、米国ハイイールド債券:ICE BofA米国ハイイールド債券指数(円換算)、世界株式:MSCI全世界株価指数(円換算)、日本株式:TOPIX、日本リート:東証REIT指数 ※指数はすべてトータル・リターン・ベース ※各比較指数は、2021年10月15日を10,000円として指数化。 ※投資対象ファンドによって基準価額に反映する日が1-2日異なるため、比較指数は1営業日前ベースとしています。

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

# 資産配分比率決定の分析ポイント:4つの柱



## 1) マクロ経済分析

足元の見通し

中国の経済活動再開による好影響を見込む

注目点

- 世界各国の経済指標
- ピクテ独自のリスク回避度指数
- 世界各国の問題
- 政府や中央銀行の政策

など



## 2) 流動性分析

足元の見通し

米国の利下げ転換には一定の時間を要する可能性

注目点

- 中央銀行の資金供給量(累積ベース、流出入ベース)
- マネーサプライ
- 民間の信用供与状況(銀行/ノンバンク)

など



## 3) バリュエーション分析

足元の見通し

欧州の新興国や中南米などの新興国株式に割安感

注目点

- 利回り水準比較
- リスクプレミアム、株価収益率(PER(過去平均との比較))
- 1株当たり利益(EPS(トレンド、修正状況))
- 購買担当者景気指数(PMI)と各資産の比較

など



## 4) センチメント(テクニカル)分析

足元の見通し

1月のセンチメントは月末にかけて改善

注目点

- ボラティリティの状況
- オプション市場の歪み
- テクニカル  
(移動平均との比較/過去1年での最高値・最安値銘柄状況)
- 経済指標の予想値と公表値との乖離

など

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。



# 1) マクロ経済分析 中国の経済活動再開による好影響を見込む

- 中国では、ゼロコロナ政策に伴う都市封鎖が解除されたことから、5兆元前後(中国のGDPの4%程度に相当)に積み上がったと推定される家計の余剰貯蓄が消費に回る可能性があるとみています。中国の経済活動再開による好影響は、中国国内にとどまらず、近隣のアジア・太平洋地域を中心に中国国外にも広く及ぶと見込まれます。

## 主要国・地域のGDP成長率実績とピクテ予想

前年比、%

	2021年	2022年	2023年		(差異)
	実績	ピクテ予想	ピクテ予想	市場予想	
世界	6.1	2.6	1.8	1.7	0.1
先進国	5.3	2.6	0.6	0.3	0.2
新興国	7.2	2.7	3.2	3.4	-0.2
新興国(工業国)	7.8	3.9	4.8	4.2	0.6
新興国(資源国)	5.6	-0.9	-1.8	0.8	-2.6
アジア(除く日本)	7.5	3.9	5.2	4.5	0.7
中南米	6.8	2.9	1.0	0.9	0.1
欧州・中東・アフリカ	6.1	-1.7	-2.6	0.7	-3.3
米国	5.9	1.8	0.4	0.4	0.0
ユーロ圏	5.3	3.4	0.2	0.0	0.2
日本	2.2	1.1	1.5	1.3	0.2
英国	7.6	4.3	-0.9	-0.9	0.0
スイス	4.2	2.0	0.9	0.6	0.3
ドイツ	2.6	1.7	0.0	-0.5	0.5
フランス	6.8	2.5	0.4	0.1	0.3
イタリア	6.7	3.7	0.1	0.0	0.1
スペイン	5.5	4.7	1.1	1.0	0.1
中国	8.5	3.0	5.5	4.8	0.7
インド	8.5	8.0	6.0	5.6	0.3
ブラジル	5.3	2.7	0.8	0.8	0.0
ロシア	4.7	-3.1	-4.5	-2.8	-1.7

## 主要国・地域のインフレ率実績とピクテ予想

前年比、%

	2021年	2022年	2023年		(差異)
	実績	ピクテ予想	ピクテ予想	市場予想	
世界	3.3	6.5	4.8	5.3	-0.5
先進国	3.2	7.4	4.5	4.5	-0.1
新興国	3.4	5.4	5.3	6.3	-1.0
新興国(工業国)	2.6	3.9	4.8	6.1	-1.4
新興国(資源国)	6.0	10.3	7.2	6.1	1.1
アジア(除く日本)	1.8	3.5	2.8	3.3	-0.5
中南米	6.5	8.9	5.5	5.9	-0.4
欧州・中東・アフリカ	7.7	10.5	14.6	17.3	-2.7
米国	4.7	8.0	3.8	3.9	-0.1
ユーロ圏	2.6	8.4	5.4	5.9	-0.5
日本	-0.2	2.5	2.8	1.9	0.9
英国	2.6	8.6	6.8	7.1	-0.3
スイス	0.6	2.8	2.1	2.1	0.0
ドイツ	3.2	8.8	5.3	6.7	-1.4
フランス	2.1	6.0	4.5	5.1	-0.6
イタリア	1.9	8.8	6.9	6.5	0.4
スペイン	3.0	8.4	2.9	4.3	-1.4
中国	0.9	2.1	2.0	2.3	-0.3
インド	5.1	6.9	5.0	6.7	-1.7
ブラジル	8.3	9.0	4.8	5.0	-0.2
ロシア	6.7	13.7	5.8	5.8	0.0

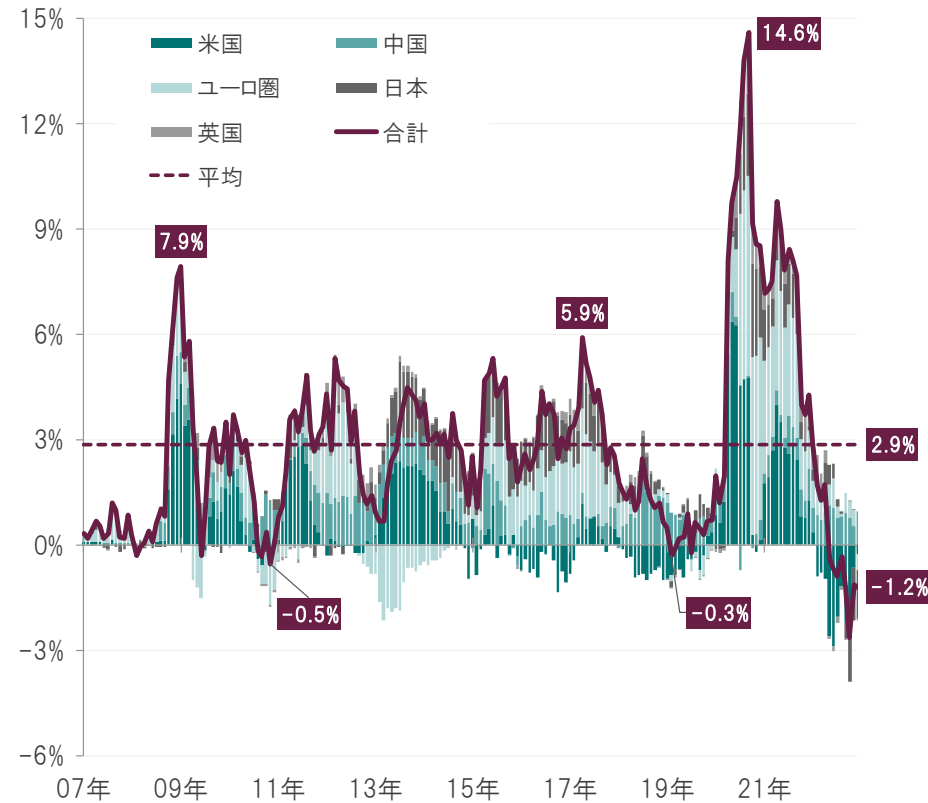
※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。  
 ※市場予想は2023年1月18日時点のブルームバーグコンセンサス予想。 ※(差異)は2023年のピクテ予想と市場予想の差異。 出所:CEIC、リフィニティブ an LSEG businessのデータを基にピクテ・アセット・マネジメント作成

## 2) 流動性分析 米国の利下げ転換には一定の時間を要する可能性

- 流動性については、主要国・地域の中央銀行の流動性フローは依然マイナス圏にあります。ピクテでは、米国の金融引き締めは最終段階に入りつつあるとみる一方で、インフレ再燃への懸念から、米連邦準備制度理事会(FRB)が利下げに転じるまでには一定の時間を要する可能性が高いと考えています。

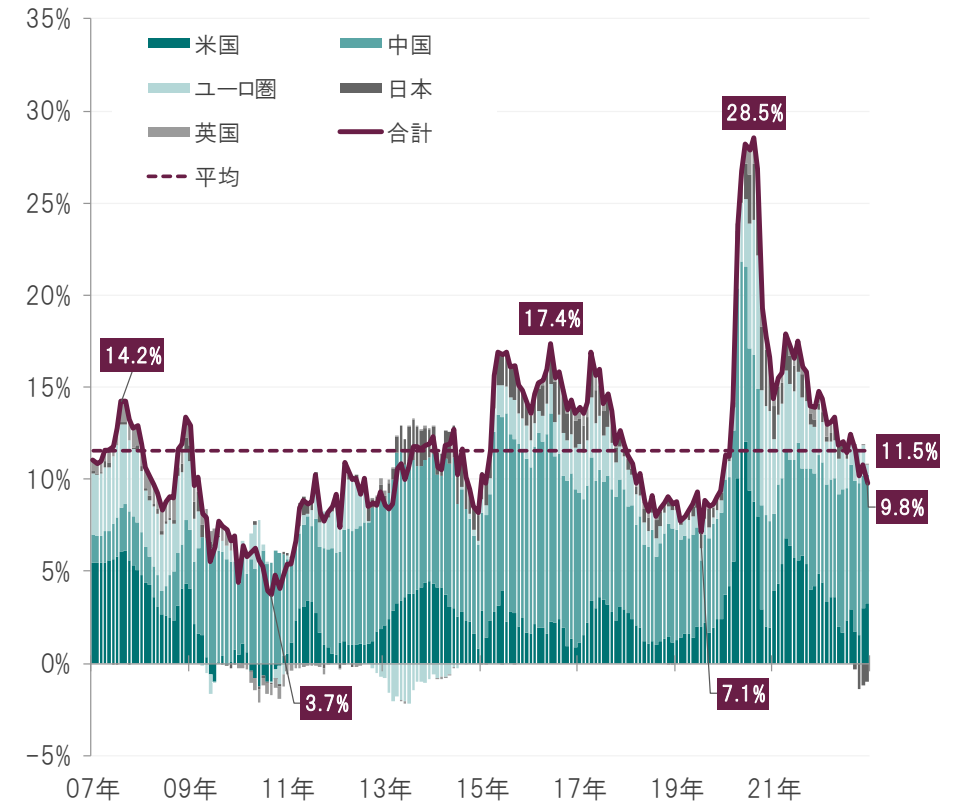
### 主要国・地域の中央銀行の流動性フロー

月次、期間：2007年1月～2022年12月  
6ヵ月移動平均、対名目GDP



### 主要国・地域の中央銀行および民間の流動性フロー

月次、期間：2007年1月～2022年12月  
6ヵ月移動平均、対名目GDP

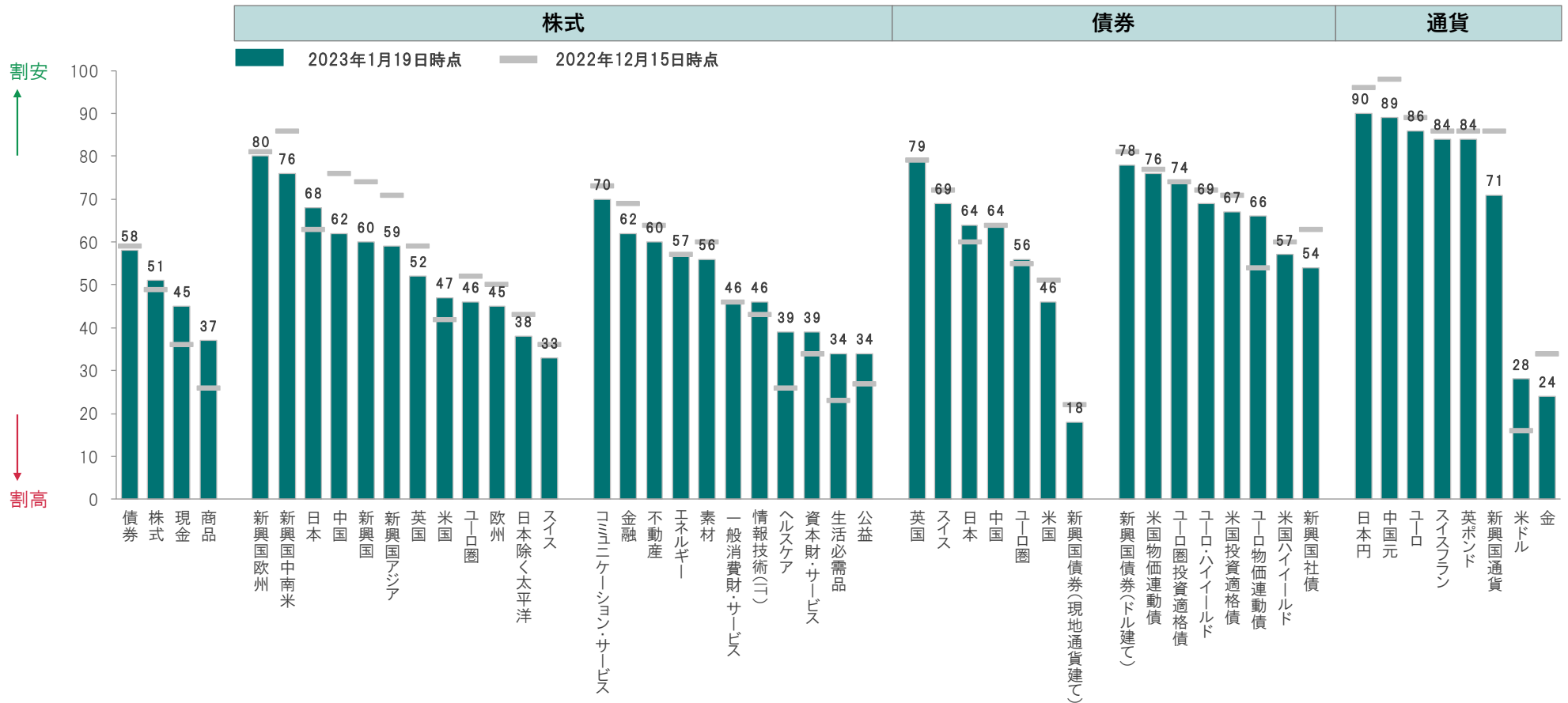


※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。  
※中央銀行の流動性フローは中央銀行の資金供給量(流出入ベース)より算出、民間の流動性フローは民間の信用供与状況(銀行、ノンバンク)より算出 出所:リフィニティブ an LSEG businessのデータを基にピクテ・アセット・マネジメント作成

### 3) バリュエーション分析 欧州の新興国や中南米などの新興国株式に割安感

- バリュエーションについては、欧州の新興国や中南米などの新興国株式に割安感があるとみています。

#### 各資産のバリュエーション(過去20年間の推移における各評価時点の百分位評価)



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。 ※グラフの数値は過去20年間のバリュエーション推移における各評価時点の百分位評価を表し、50は過去20年間の中央値に相当。数値は過去に遡って修正されることがあります。 ※株式: 株価純資産倍率(PBR)、12ヵ月先株価収益率(PER)、1株当たり利益トレンドベース株価収益率(PER)、株価売上高倍率(PSR)、PEGレシオ、株式リスクプレミアム(先進国のみ) 現金および債券: 利回り一名目GDPトレンド 物価連動債: 物価連動債利回りー実質GDP成長率 現地通貨建て新興国債券: 利回りー消費者物価指数 通貨: 米ドルは米ドル指数からの乖離、その他通貨はPPP(購買力平価)からの乖離 金: スポット価格/米国消費者物価指数 商品: ブルームバーグ商品スポット指数/世界インフレ率 出所: リフィニティブ an LSEG businessのデータを基にピクテ・アセット・マネジメント作成

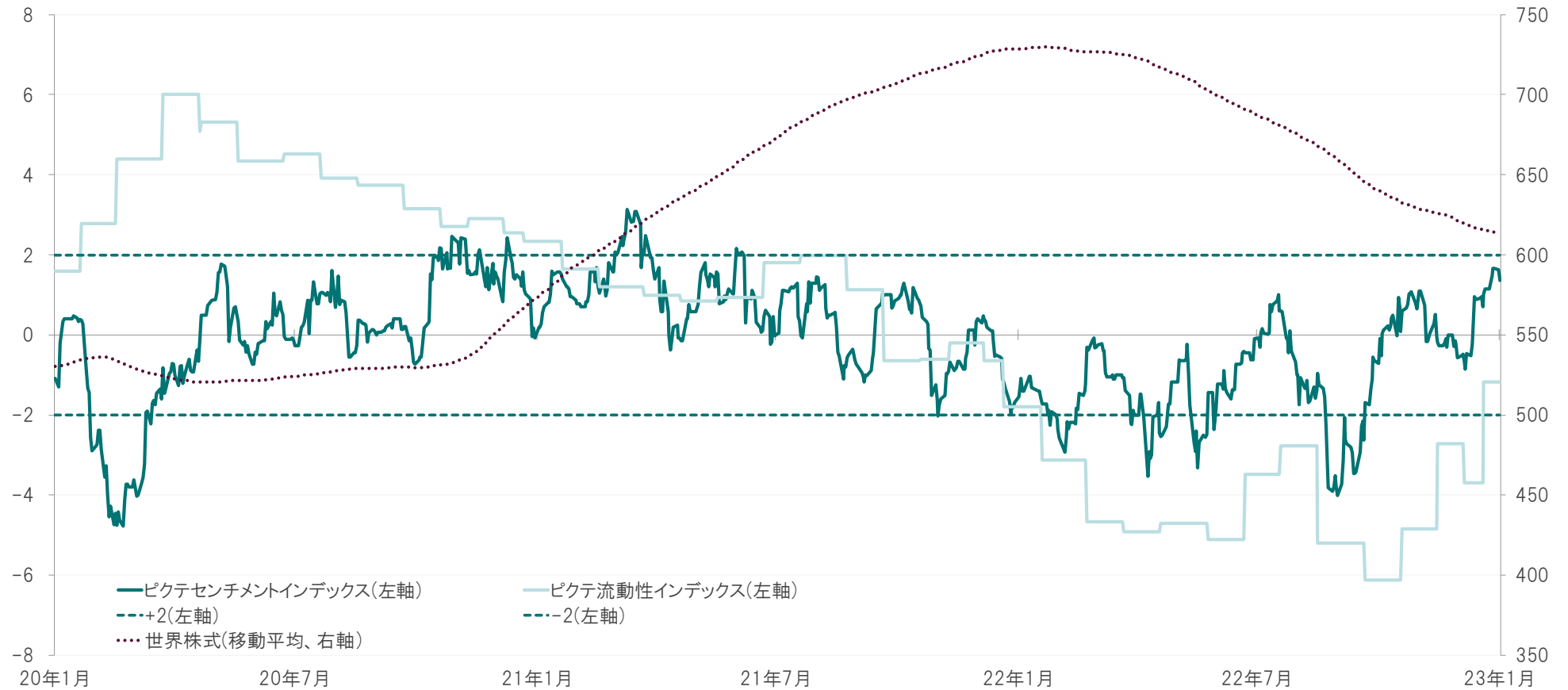


## 4) センチメント(テクニカル)分析 1月のセンチメントは月末にかけて改善

- 2023年1月のピクテセンチメントインデックスは、月末にかけて改善しました(2022年12月30日:-0.6→2023年1月31日:1.4)。

### ピクテ流動性、センチメントインデックス

日次、期間:2020年1月31日~2023年1月31日



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。  
 ※世界株式:MSCI全世界株価指数(米ドルベース)、200日移動平均 ※ピクテ流動性、センチメントインデックスは流動性供給量や世界株式の予想PER等を使用し、ピクテ独自に算出したものです。数値は過去に遡って修正されることがあります。 ※ピクテ流動性インデックスは数値が大きいほど流動性が潤沢なことを表し、ピクテセンチメントインデックスは数値が大きいほどセンチメントが過熱していることを表します。 出所:リフィニティブ an LSEG business、ピクテ・アセット・マネジメントのデータを基にピクテ・ジャパン作成

# ファンドの特色

## 1 分散投資の徹底

- 様々なアセット・クラス(資産)へ分散投資し、ポートフォリオ効果<sup>注1</sup>を追求することで、リスクに対するリターンの向上を狙います。

## 2 ESGを考慮した魅力的な運用戦略へ投資

- ESGへの取り組みなどを考慮し高い運用力が期待できる戦略を選別し分散投資します。

## 3 機動的に資産配分を変更

- 市場環境およびESGスコア<sup>注2</sup>に応じてアセット・クラスやその資産配分を機動的に変更します。

## 4 最新の投資手法も活用

- 株式や債券などの伝統的な投資とは異なる投資戦略、オルタナティブ戦略<sup>注3</sup>を採用する投資信託証券への投資も行い、更なる分散投資効果を追求します。

### 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

### 愛称「モンド」の由来

モンド(Monde)とは、フランス語で「世界」を意味しています。サステナビリティ(持続可能性)を意識した世界への投資を通じて世界をより良くしたいという想いが込められています。

注1 「ポートフォリオ効果」とは、値動きの異なる複数の資産を組合わせて分散投資することで、個々の資産の値動きが相殺され、ポートフォリオ全体としてのリスクが軽減されることをいいます。

注2 「ESGスコア」とは投資対象およびポートフォリオ全体のESGへの取り組み度を数値化したピクテ独自の指標です。

注3 「オルタナティブ戦略」とは、上場株式や債券などの伝統的な資産への投資とは異なる代替的な投資手法のことをいい、株式市場や債券市場の動きに左右されにくい投資成果を目指す戦略などが多く、一般的に分散投資効果の向上が期待できる戦略です。例えばリート、コモディティ等への投資のほか、ロング・ショート戦略(割安と判断される資産を買建て、割高と判断される資産を売建てる投資手法)などがあります。

※ファミリーファンド方式で運用を行います。マザーファンドからの投資にあたっては、投資信託証券への投資を通じて行います。なお、直接為替予約取引等を行う場合があります。各指定投資信託証券につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。 ※投資する投資信託証券の中には、為替ヘッジを行う投資信託証券も一部含まれます。外貨建資産については、為替ヘッジが必要と判断した場合は為替ヘッジを行うことがあります。 ※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。



# 投資リスク

## 基準価額の変動要因

- ファンドの基準価額は、実質的に組入れている有価証券等の価格変動により変動し、下落する場合があります。
- したがって、投資者の皆様が投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

## 価格変動リスク・信用リスク

- ファンドは、実質的に株式を投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績・信用状況、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。
- ファンドは、実質的に公社債を投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている公社債の価格変動の影響を受けます。一般的に金利が低下した場合には、公社債の価格は上昇する傾向がありますが、金利が上昇した場合には、公社債の価格は下落する傾向があります。
- ファンドは、実質的にデリバティブ取引を行うことがありますので、この場合ファンドの基準価額は当該デリバティブ取引の価格変動の影響を受けます。
- ファンドは、実質的にリートおよびコモディティ(商品)を投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れているこれらの価格変動の影響を受けます。
- 有価証券の発行体の財務状況等の悪化により利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる(債務不履行)場合、または債務不履行に陥ると予想される場合には当該有価証券の価格が下落することがあります。

## 為替に関するリスク・留意点

- 実質組入外貨建資産について、為替ヘッジを行わない場合には、係る外貨建資産は為替変動の影響を受け、円高局面は基準価額の下落要因となります。
- また、為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、為替変動の影響を受ける場合があります。また、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低い場合、当該通貨と円との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。

## ロング・ショート戦略によるリスク

- ファンドは、実質的な組入資産の一部において売建て(ショート)を行う場合がありますが、当該売建て資産の価格が上昇した場合は基準価額が下落する要因となります。また、投資戦略の意図に反して、買建て(ロング)資産の価格が下落する一方で、売建て資産の価格が上昇した場合は、想定以上の損失が生じ基準価額が下落することが考えられます。

## カントリーリスク

- ファンドが実質的な投資対象地域の一つとする新興国は、一般に政治・経済・社会情勢の変動が先進諸国と比較して大きくなる場合があります。政治不安、経済不況、社会不安が証券市場や為替市場に大きな影響を与えることがあります。その結果、ファンドの基準価額が下落する場合があります。
- 実質的な投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化により証券市場や為替市場等に混乱が生じた場合、またはそれらの取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。この他、当該投資対象国・地域における証券市場を取り巻く制度やインフラストラクチャーに係るリスクおよび企業会計・情報開示等に係るリスク等があります。

## 取引先リスク

- ファンドは、実質的にデリバティブ取引を行う場合がありますが、店頭デリバティブ取引を行う場合には、取引の相手方の倒産等により契約が不履行になるリスクがあります。

## 流動性リスク

- 市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できない場合があります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

# お手続きと費用

## お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	以下のいずれかに該当する日においては、購入・換金のお申込みはできません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>以下に掲げる日の前営業日または当日</li> <li>ルクセンブルクの銀行の休業日、ロンドンの銀行の休業日</li> <li>一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日</li> </ul>
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	2021年10月15日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	毎年9月20日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	年1回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

## ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	1.65%(税抜1.5%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。(詳しくは、販売会社にてご確認ください。)	
信託財産留保額	ありません。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年1.1198%(税抜1.018%)の率を乗じて得た額とします。	
	[運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)]	
	委託会社	販売会社
	年率0.3%	年率0.7%
		受託会社
		年率0.018%
投資対象とする投資信託証券	純資産総額の最大年率2.75%(上場投資信託を除く)別途成功報酬がかかるものがあります。(2022年12月21日現在。各指定投資信託証券の報酬率につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。) ※上記の報酬率等は、今後変更となる場合があります。	
実質的な負担	概算で最大年率 <b>2.0%</b> (税込)程度(注)に指定投資信託証券の成功報酬(適用されない場合もあります。)が加算された額となります。 (注)ファンドは市場環境により積極的に組入比率の見直しを行いますので、実際の投資信託証券の組入状況により変動します。なお、2022年9月末日現在の資産配分比率に基づいた試算値は、年率 <b>1.46%</b> (税込)程度です。	
その他の費用・手数料	毎日計上される監査費用を含む信託事務に要する諸費用(信託財産の純資産総額の年率 <b>0.055%</b> (税抜0.05%)相当を上限とした額)ならびに組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)は、そのつど信託財産から支払われます。マザーファンドの投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料および借入金の利息等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われることがあります。また、購入・換金時に信託財産留保金が購入価格に付加または換金価格から控除されるものがあります。	

※当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

# 委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図)
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理)
投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・エス・エイ、ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド(ファンドおよびマザーファンドの資産配分に関する助言)
販売会社	販売会社については下記のホームページをご照会ください。(募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払い等)

ピクテのファンドや投資環境等に関する情報やセミナーについてより詳しく知りたい方は下記へアクセスください。



ピクテのホームページ  
<https://www.pictet.co.jp>



ピクテ主催の各種セミナー・イベント等  
<https://www.pictet.co.jp/seminar.html>



※投資信託説明書(交付目論見書)等は販売会社にてお渡ししています。[ピクテのホームページ]の「ファンド」一覧より該当するファンドを選択し、ファンドページ中段の「販売会社一覧」タブをクリックすることでご照会いただけます。

# 販売会社一覧

投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先(2023年1月末現在)

商号等	加入協会			
	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券(注)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○
きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3198号	○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○
株式会社北九州銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第117号	○		○
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第53号	○		○
株式会社きらぼし銀行(委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第53号	○		○
株式会社七十七銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第5号	○		○
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○
株式会社北海道銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第1号	○		○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第12号	○		○
株式会社山口銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第6号	○		○

(注)株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

# メモ



